

ひとの心と  
重力がすれなる。



## 目次

■創立90周年を迎えて	3頁
■高等学校移転事業について	4頁
■コロナ禍と作陽の使命	
学校法人作陽学園 理事長 松田英毅	5頁
■学長補佐ご挨拶	
学長補佐 松田光恵	5頁
■未来の音楽科を成長させる場を求めて	
大学院音楽研究科長／音楽学部長 竹内京子	6頁
■地域における「食の拠点」を目指す食文化学部	
食文化学部長 宮本 拓	6頁
■応変の対応	
子ども教育学部長 林 直人	7頁
■作陽短期大学がスタートしました	
作陽短期大学 音楽学科長 杉山貴義	7頁
■教員採用試験・公立保育士採用試験結果	8頁
■岡山県作陽高等学校 校長 野村雅之	9頁
■「見えない力」が「生きる力」に	
くらしき作陽大学附属認定こども園	
園長 藤木潤子	10頁
■新任教員のご紹介(大学・短期大学)	11頁
■新任の先生のご紹介(高校・認定こども園)、新任職員、 退職・退任された教職員のご紹介	12頁
■鶴声会だより・翠会だより・作陽高校同窓会だより	13頁
■大学教育目的、学生募集	14頁
■令和元年度決算について	15頁
■創立90周年記念募金 募集要項	16頁



# 創立90周年を迎えて



理事長  
まつだ ひでき  
松田 英毅

90<sup>th</sup>

作陽学園は、今年創立90年を迎えました。

90年の歴史をふりかえり、これ迄ご支援をいただいた多くの方々に心から感謝申し上げます。

作陽学園創立者松田藤子先生は、尾道実科女学校の教頭をしていたころ、仏教の教えをもとに人間教育の学校創りを目指し、師である住岡夜晃先生に相談したところ、「教育は知識を教え、宗教は智慧を与える。教育は事実を教え、宗教は真理を教える。教育だけでも、宗教のみでも駄目で、両方を教えてはじめて真の人間教育ができる。大いに意義あること」とすすめられたのでした。創設時より今日迄、一貫してきたのは知識と智慧、事実と真理を教え、大乗仏教に基づいた宗教的情操教育による人間教育がありました。

およそ60年前、高校は女子校から、男女共学になり多くの男子生徒を受け入れ、以来今日迄、特にスポーツに力を入れて参りました。今日では、サッカー、柔道、ゴルフで全国に名を馳せた学校となっています。そんな中で昨年夏に、2017年卒の渋野選手が全英女子オープンゴルフで優勝の快挙をなしつげ、作陽の歴史に大きな金字塔を立てました。スマイリングシンデレラと呼ばれ、世界から注目されたのは特に彼女の才柄であったと思います。誠実、謙虚、思いやりとさわやかな立ち居るまいは本校の目指す教育の姿でありました。

高校は誕生の地津山市から大学のある倉敷市玉島へ、令和5年開学を目指し、移転事業を開始しました。倉敷へ移転してからはスポーツのみでなく、進学にも力を入れたいと考えています。そこに宗教の学校を創った本来の意義があるからです。わが国の発展、世

界の文化向上の為に宗教心を養う教育が求められるのは必然と思われるからです。

今年は、世界中がコロナ禍の苦悩の中にあり、現代文明に対する反省も出ています。以前より科学者から地球温暖化への警鐘が鳴らされていましたが、人類は欲望を抑えることができず、ひたすら経済発展をなしてきた結果、世界的な異常気象の多発に加え、コロナ禍に見舞われ、行きすぎた科学技術文明への反省がなされはじめたと思われます。現代文明がこのまま進めば、人類は地球上から早く消える運命にあるといわれています。この人類の危機を救うのは奇しくも、学園創立時に住岡先生が示された「教育(科学)と宗教」の教育ではないかと思います。人間は欲望の追求のみではなく、大いなるものに生かされ、すべての生きものはつながって生きていることを知り、人間はもとより、地球上の生命あるすべてのものが助けあって生きる世界をつくるのが本当の使命ではないかと思われます。

本学園の真の人格をつくる教育は、人類の向上発展をなす本当の文化の創造でもあったのではないかと思われます。明治以来、日本の教育は頭脳(科学)教育であり、そのため殆んどの人が科学的思考こそ善であると思い込み、いわゆる神仏のはたらきといわれるものは拒絶してきましたが、今や科学では分らない大いなるものはたらきを否定できなくなり、その中に新たな文明の光が見えはじめた感がします。作陽の90年の伝統の教育が、人類存続の為に大いに期待される時代になろうとしているやに思われます。学園をあげて建学の精神を一層力強く教育して参りたいと思います。



人工芝のフィールド、柔道場を併設した体育館などのスポーツ施設も充実



ICTを導入した教育環境も充実

#### <岡山県作陽高等学校 移転概要>

所 在 地	岡山県倉敷市玉島八島
敷 地 面 積	約70,330m <sup>2</sup>
延床面積・建物	校舎／約6,430m <sup>2</sup> 鉄筋造3階建 体育館／約3,280m <sup>2</sup> 鉄筋造2階建 食 堂／約470m <sup>2</sup> 木造1階建 サッカーゴート／2面 人工芝
開 設 予 定	2023年4月1日

# コロナ禍と作陽の使命



学長  
まつだ ひでき  
松田 英毅

7月の豪雨で被災されました方々に心よりお見舞申し上げます。

今年は新型コロナウイルスによる感染症のため、国内はもとより世界中が混乱しています。本学では春に予定していた卒業式、入学式ともに行えず、いきなりオンライン授業を4月、5月を行い、6月に入り、ようやく対面授業ができるようになりましたが、コロナ対策を取りながらの授業再開で、平常通りには行きません。それでも、学生たちは水を得た魚のようにいきいきと通学しています。

近年、頻発する局地的豪雨による災害や、世界の異常気象などから、このコロナ禍は、現代文明社会のあり方はこれで良いのかとの人類への問いかけではないかとさえ思われます。

本学は、人間の感性を豊かにする音楽、人の生命と健康の維持増進をはかる食文化、人間教育にたずさわる子ども教育とにわかれ、それぞれ文化発展の為に欠かせない重要な専門分野で学生たちは学んでいます。

今春の卒業生の実績を見ますと、食文化学部管理栄養士合格率は98.8%（84名受験し83名合格）で、直近の6年間のその平均は99.0%であり、全国の140養成校の中でトップ5に入ります。子ども教育学部の公立の小学校、特別支援学校、

保育園・幼稚園への採用試験合格者は延べ45名、音楽学部の公立学校採用試験合格者は延べ10名（既卒者含め20名）で、地方の小規模校としては立派な成績と思われます。短大は就職率100%です。短大、学部とも、学生の勉学への取り組みが素晴らしいこと、学生の琴線にふれる指導がなされてきたことに尽きると思われます。

本学の特色は、このような学生の頑張りだけではありません。学生たちは、学是のもとに菩薩道を歩むプロフェッショナルな専門職業人を目指していることだと思います。近年SDGs（持続可能なゴール）が世界中で言われ始めました。それは、近代文明は人類に豊かな経済、快適で便利な社会を与えたが、人類の存続が危ぶまれ、その為に持続可能な世界を目指そうとするものです。それを可能にするのは菩薩だと思います。菩薩は、神を否定して肥大化した近代科学技術文明をも容認し、かつ、人智のおよばない大いなるもの（神・仏）のはたらきに畏敬の念をもちながら、人類の新しい文明をつくる、そんな可能性を秘めていると思います。世のため、人のために尽くし、互いに助け生かしあい、真に持続可能な文化を創造し、感謝と歓喜の人生を全うする。それが本学の目指す菩薩です。

## 学長補佐ご挨拶



学長補佐  
まつだ みつえ  
松田 光恵

令和2年度の大学はコロナ騒動の中に始まりました。入学式やオリエンテーションの中止、対面授業の延期など。いきなり知らない土地で入学式もなく自宅待機していなければならぬという状況を強いられた新入生も数多くおり、さぞや心細かったであろうと氣の毒にという他言葉がありません。

我々教員はまず、オンライン授業という未知なる壁に直面しました。目の前に人がいない、ただ黙々とPCと向き合い、学生と文字のやり取りをするという新たな経験です。不慣れなことに多くの時間が割かれ、コミュニケーションの方法自体が大きく変動しようとしていることを実感しました。

春になり緑あふれても抜け殻のように閑散としていたキャンパスは、6月に学生が戻ると同時に生き生きとし、活気が蘇りました。やはり学生あっての大学だと心から思った次第です。学生にとっては休講手続きをこれ幸いと、羽を伸ばすのかと思案しておりましたが意外にも（失礼ながら）多くの学生が対面授業を心待ちにしており、眞面目に課題に取り組み、学友との再開を待ち望んでおりました。仲間と共に楽しそうに過ごしている姿を見ると、心から嬉しく思います。また一緒に考えて、一緒に議論して、一生懸命皆で考えるという場面、大学というひとつの空間や場所を共有する体験が、今後社会に出ていく彼らにとっていかに重要な役割を果たしているか、それを支える一大学人として使命感を新たにしています。

大学では最大限に感染予防に留意し、様々な取り組みを行っています。自肃疲れや疲弊感が伴う毎日ですが、withコロナの時代と言われ、治療法が未だ確立されていない今、否が応でも付き合っていかなければなりません。日常生活から社会システムに至るまで、あらゆる場所で変革が起こっていますが、環境へ適応し、自利利他の精神を忘れず、学生支援に邁進していきたいと思います。

## 未来の音楽家を成長させる場を求めて



大学院音楽研究科長  
音楽学部長  
たけうち きょうこ  
竹内 京子

みなさま、お元気でお過ごしでしょうか。いつも、温かく大きな応援を賜りまして、ほんとうにありがとうございます。

先日、自衛隊音楽隊に入隊した卒業生達が引き締まった凛とした笑顔で来学してくださいました。大学生活4年間で増量した体重10kgを基礎訓練期間の3ヶ月で落とし、入学時のスレンダーな(筋肉量は増量している筈)体型に戻したS君は、訓練チームで大活躍したことさることながら、訓練期間終了時には上位7%以内の優秀な個人成績で表彰されました。ほんとうに心から誇りに思います。新年度はS君と入れ替わりに弟さんが入学し、しっかり学業の精励に邁進しておられます。彼らの笑顔には勇気、元気、やる気をいただきました。それは、支援を必要としている人々の力になるのだという使命感に裏打ちされたパワーが漲っているからだと思います。

さて、昨今は新型コロナウイルス感染拡大防止のために、多くのイベントが延期・中止・縮小といった状況におかれ、どの分野においても苦慮しながらの手探りの活動とならざるを得ないのはご承知のとおりです。4~5月のオンライン授業・レッスンを学生と教職員の協力や創意工夫で乗り切り、6月

から対面授業を開始いたしました。生の音の表情の豊かさ、マスク越しであってもFace to Faceで思いを伝え合うよろこびを改めて実感いたしました。

コロナ禍の中にあっても、学生お一人おひとりにあっては伸び盛りの大切な時期であり、細心の注意を払う制限された環境にあっても、充実した学びを得ていただくにはどのように進めていくのがよいのか、国内外のオーケストラや公共文化施設の取組情報、ガイドライン等も共有しながら協議を重ねて、教育活動に取り組んでおります。本学では、藤花楽堂のロビーで金管楽器のレッスンを行うなど、広い空間を活用した新様式でのレッスンや授業を実施しております。

現在、演奏芸術コースの学内演奏やモスクワコースの学内公開演奏を履修生と関係教職員のみで行っておりますが、10月以降は、学生や教授陣の研究成果発表を含む演奏会をインターネットでの予約制で実施する計画を進めております。今後の情勢、状況によっての実施方法に変更が出ました際には、その都度迅速に、ご予約をいただいたお客様にご連絡させていただぐと共に、ホームページ上で随時お知らせさせていただきますので、何卒ご理解とご協力を賜りますよう、お願ひいたします。

アフターコロナ期には、学生達が、多面的に考える力や物事を深く学ぶ力、心を鎮めて音楽と向き合い、音楽を深く捉える力などを充分に蓄えて、さらに充実した学びに進めるように、考えられるすべての方策を取りたいと考えております。さらなるご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

## 地域における「食の拠点」を目指す食文化学部



食文化学部長  
みやもと たく  
宮本 拓

本年度は新型コロナウイルスの影響で授業の開始が遅れ、オンライン授業が4月20日(月)から始まりました。また、対面授業については、6月4日(木)に開始することができ、6週間が経過いたしました。オンライン授業を初めて経験された先生も多い中、授業の教材準備に時間を費やし、学生の理解度をどのように確認するかなどの授業の進め方に対する反省点についての意見をいただきました。今回のコロナ禍は、教室での集団授業というスタイルを終焉させ、新しい教育システムへの移行期となるかもしれません。

さて、食文化学部は、栄養学科と現代食文化学科から成り、豊かな人間性と確かな専門性を備えた管理栄養士、栄養士、栄養教諭、家庭科教諭などの養成を目指し、「食」に関わる多彩な人材を育成しています。この一年を振り返り、食文化学部の近況を2,3報告させていただきます。

まず、管理栄養士養成課程としての栄養学科では、実力のある管理栄養士の養成に向けてカリキュラムの検討を重ね、常に中四国地区のトップクラスを維持してきました。本年3月

27日に発表された第34回管理栄養士国家試験は、84名が受験し、83名が合格しました。合格率は98.8%でした。この5年間の合格率の平均は98.8%であり、合格率・合格者数において、高い値を維持しています。

一方、現代食文化学科は、卒業時に栄養士資格を取得できる栄養士養成課程としてスタートし、3年目になります。本学科では、病気予防の視点から「栄養」と「運動」に関する専門知識と技能を身につけ、人々の健康の維持増進に寄与し、健康寿命の延伸に貢献できる人材を育てることを目的としています。この栄養士免許取得に合わせて栄養教諭や家庭科教諭の教員免許や、多様な資格(フードコーディネーター、災害食コンシェルジュ、商品企画開発士など)の取得へ向けて、個人の選択希望も踏まえて支援しています。

また、本学部は社会や地域とのつながりを大切にした取り組みを実施しています。その一例として、学生の実践力育成の場として開設されている「さくようヘルスケアレストラン」では、学生達の考案した「1食500kcal台のバランスメニュー」を提供しており、地域の方々にも参加していただくイベントを企画し、交流を深めています。このヘルスケアレストランを地域の「食の拠点」として活用し、一次予防の推進を目指します。

以上のように、これまでの伝統と実績を継承しつつ、今後の組織の充実に向けた取り組みをさらに推進します。皆様の一層のご支援・ご協力を願い申し上げます。

# 応変の対応



子ども教育学部長

はやし なおと  
林 直人

日頃より子ども教育学部の教育活動にご理解とご協力を頂いておりますことに感謝申し上げます。

さて、本年度におきましては年度初めのスタートから対面授業ができない異例な事態となりました。学生達はどんな様子だったのか心配のことだと思います。今回はアンケート調査をもとに学生の様子をお伝えしたいと思います。

まず、入学早々自粛が余儀なくされた1年生ですが、全員に対して「こころの健康アンケート」を実施いたしました。結果は、「友人ができないままオンライン授業が始まると困ったことを共有したり、相談できる友人関係が築けなかった」とこと等により半数の学生が不安に思っているとのことでした。しかし、不安はあるが自分で解決できるとの記述も多くあり、力強さ、たくましさを感じた次第です。

一方、新しく試みたユニバを活用したオンライン授業はどうだったのでしょうか。2,3年生130人に聞いてみま

した。良かった点では「自分のペースで、時間を有効に活用しリラックスして学習できた」が多く、次に「教材を何度も見返し、自分で調べたり考えたりするなど主体的な勉強ができた」が続きました。また「コンピュータリテラシーの高まり」をあげた学生もいました。反対に困ったことは「初めてのオンライン授業なのでレポートが教師にちゃんと届いているか不安」また「それがどう評価されたのか心配」といった声が多くありました。「課題提出に追われたいへんだった」との感想も多くありました。なお、「質問したが回答がすぐに返って来なかつた」「教材がわかりにくかった」等教師に改善を求める声もあり反省をいたしました。以上、学生に操作・学修方法等を直に説明できないままに突入したので教員もたいへん不安でしたが、柔軟に対応してくれたおかげで履修科目の課題提出もたいへん良好でした。

なお、4年生は、現在もそうですが就職戦線真っ只中でした。試験内容が急に減ったり、一次と二次を併せて1度に実施するようになつたりとコロナ禍のための変更に動搖は見せたもののすぐに立ち直ってくれました。

最近、レジリエンス(しなやかな強さ)、折れない心という言葉をよく聞くようになりました。時代が求めているのは自らを変革しこのような心をもつた人かもしれません。その資質を学生に見る事が出来たことはうれしい発見でした。

## 作陽短期大学がスタートしました



作陽短期大学

音楽学科長

すぎやま きよし

杉山 貴義

本学は今年度(2020年度)から大学名を「作陽音楽短期大学」から「作陽短期大学」に名称変更し、音楽専攻29名、幼児教育専攻39名、計68名の新入生を迎える新たな歴史を刻み始めました。

しかしコロナ禍の影響で入学式は中止、学生諸君はそのまま自宅待機となり、慣れないオンライン授業に取り組むことになりました。国の緊急事態宣言の解除を受け、6月4日から対面授業が開始となり、キャンパスにやっと活気が戻ってきました。現在大学はコロナウイルス感染予防に細心の注意を払い、三密を避けながら授業を再開しております。

今回のコロナ禍による自宅待機の期間はおよそ二ヶ月に及び、その間オンライン授業はあったものの教職員や学生仲間と直接言葉を交わす機会はほぼ無い状態でした。それにより新入生は新しい人間関係の構築が例年より遅れてしまい、可哀想なことをしました。

在学生も就職活動の遅れや、練習棟も以前のように使えず、楽器の練習場所確保に困ったり、保育現場にボランティアに行きたくても自粛のため行けなかつたりと様々な制約が生じたため、例年とは違った新学期の開始でした。

さらに感染拡大防止のため、演奏会の中止や、学外での実習が中止となるケースが多く見られます。短大では7月に実施予定だった幼児教育専攻2年生の保育所実習が中止となり、学内での演習授業によって代替するという事態になりました。学生諸君の現場での貴重な経験の機会が失われたことになり、非常に残念な思いをしております。ただこのような状況下でも、担当の教員は代替演習でも現場で通用する力が十分付くよう、学生諸君の学びのためにどうしたらいいのか、工夫を凝らして日々取り組んでくれています。

短大の特長は少人数教育による面倒見の良さです。教員と学生の心理的な距離が近く、きめ細かい指導を実施していると自負しています。これからもコロナウイルスの影響による遅れを取り戻すべく、教職員一丸となって短大教育に邁進していく所存です。

作陽学園関係者の皆様、同窓生の皆様、今後も作陽短大の教育にご支援とご協力をお願い申し上げます。



2020年4月採用

68名  
合格!!  
(2020年4月1日現在)  
(延べ数・卒業生含む)

〈内訳〉

小学校教諭	15名
特別支援学校教諭	5名
公立保育士・幼稚園教諭・保育教諭	25名
家庭科教諭(高等学校)	3名
音楽教諭(中学校・高等学校)	20名



ひとの心を動かすひとになる。  
くらしき作陽大学・作陽短期大学



岡山県作陽高等学校  
校長 野村 雅之

作陽高校は昭和5年(1930年)に津山市南新座に創設された津山女子高等芸術学院が始まりです。その後昭和9年(1934年)に津山駅北西の吉井川そばの大谷に移転しました。大谷校舎が3回の水害に遭い、そのため昭和22年(1947年)に現在の吉井川南岸の小高い桃山への校舎移転計画に着手し、昭和28年(1953年)移転を完了しました。創設以来校名の変更は学制改革等により数度ありましたが、昭和38年(1963年)に男女共学とすると同時に現在の校名に変更しました。「岡山県作陽高等学校」は現在に至るまで、ここで多くの歴史を積み重ねてきました。今年は作陽学園の創立90周年です。この節目である2020年に、作陽高校の更なる歴史を積み重ねるべく倉敷市玉島の移設予定地の整備が始まりました。

私が作陽高校に赴任したのは平成元年でした。世の中はバブル経済に浮かれ、第2次ベビーブーム世代が入学してきた平成2年には、美作地区の高校生の人数は現在の2倍以上あり、作陽高校も600人近くの入学生を迎えるようになりました。現在のような少子高齢化問題など全く想像できず、日本の経済はまだまだ成長していくだろうと皆が思っている時代でした。しかし、その後バブル経済が崩壊し日本経済が冷え込み、地域格差や所得格差などいろいろな分野での格差が広がり社会問題となっています。また、平成以降は大きな地震の発生頻度が高まり、世界でも異常気象が毎年各地で発生するようになっています。さらに今年は、100年に1度の危機と言われるほどの新型コロナウイルス問題に世界中が混乱し、いつ終息するかの見通しも立っていない状態です。先行きの見えない不安定な社会情勢です。

一方で平成の30年間で人々の生活は大幅に便利になりました。居ながらにして世界中の情報を手に入れることができるようになり、どこにいても誰とでも連絡が取れるようになりました。今回の新型コロナウイルス感染拡大防止のための休校措置でICT教育の長所を改めて認識し、有為性を実感しました。10年前には不可能な技術が誰にでも使用可能になってきています。また、単純な作業はロボットが行うようになり、さらにAI化が進むと予想されています。従来から存在している職種も淘汰され、仕事の内容や在り方も大きく変わると

言われています。これからの時代に活躍できる人物とは、幅広い知識と経験を持ち、いろいろなことに対応できる人間です。なおかつそれをベースとして専門的なスキルを持っていることが必要となります。次世代でも活躍できる人物を輩出するために、作陽高校自体がさらに成長・進化していかなければいけません。

ただし、どんな時代でも主役は人間であることに変わりありません。知識や経験、技術を使いこなすのは人です。人としてどうあるべきかを自らに問う姿勢が成長のためには必要です。「大乗仏教に基づく宗教的情操教育により 豊かな人間性を涵養する」作陽学園の建学の精神です。作陽高校の教育の根底には、この建学の精神が生き続けています。自己を高め、他を思いやる自利利他の精神を持ち、感情豊かな人物を育て輩出する使命を作陽高校は持っています。人々の生活が便利になった一方で、人ととの関係が希薄になりがちな今の時代だからこそ、この建学の精神の持つ意味は大きいのです。

我々教職員は、建学の精神を理解し、実践し、生徒に表現していくことが大切であると考えています。この度の新型コロナウイルス感染拡大防止のための休校の後に、予想もできないことが起こり得る時代だと強く再認識しました。部活動に重きを置いている生徒が多い本校においては、部活動の公式戦の多くが中止になり、目標を見失ってしまう生徒が出てしまうという危惧もありました。そこで私自身が新たな教育活動を実践し継続することが必要と考え「ポジティブトーク(モーニングシャワー)」というものを始めました。生きていくためのヒントや今の時代に必要な考え方、私の想いなどを書き留め、それを朝のホームルーム時に担任の言葉で伝えてもらいます。内容も懸命に考えていますが、何よりも教職員に毎日発信することそのものが教育であると考えました。教職員が実践継続することで、自分の人生を豊かにしていくための「人間性」とこれからの時代をたくましく生きていく「人間力」を生徒に身につけさせられると思います。

生徒が成長することはもちろんのこと、教職員も成長し続ける作陽高校として、これから時代に燐然と輝く存在でありたいと思います。

# 「見えない力」が「生きる力」に



認定こども園  
園長  
ふじき じゅんこ  
藤木 潤子

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、長期に渡り多くの家庭に登園自粛の協力を続けてきました。そして、非常事態宣言解除後の6月1日にやっと通常の教育・保育を再開することが出来ました。でも、子ども達が楽しみにしていた行事や活動は引き続き中止や延期をせざるを得ない状況が続いています。

しかし、本園では「ピンチはチャンス」と捉え、マスクの着用、手洗い、身体的距離の確保を心掛けながら、「新しい生活様式」の中でも子ども達が楽しく伸び伸びと活動できるように、環境づくりや活動の工夫を重ねています。

ところで、子ども達は、園での生活を通して、日々たくさんの技術や知識を身に付け、日々色々なことができるようになります。(糊やハサミが上手に使えるようになる、跳び箱が飛べるようになる、鍵盤ハーモニカが弾けるようになるなど) 本園では、これらの技術や知識を

「見える力」と捉えていますが、一般的には”認知能力”と言われています。

これに対して、自分で考える力、工夫する力、努力する力、友達と協力する力など、人間力の土台となる能力を「見えない力」と捉えています。この力は”非認知能力”と言われており、幼児期に身につけた能力は成人になってもその効果が持続すると言われています。

本園では、この「見えない力」の育成に焦点を当て、変化の激しい社会を生き抜いていく子ども達に必要な「生きる力」の基礎を培うべく、子ども一人ひとりの興味や意欲の見取りや、適切な環境の提供に努めていきたいと思っています。

4月	入園式・花まつり会・参観日				
5月	こどもの日の会・参観日・学生演奏会				
6月	さつまいもの苗植え				
7月	水遊び・プール遊び・個人懇談・七夕会				
8月	夏季休業中預かり保育				
9月	人形劇・敬老参観日・おいもほり				
10月	運動会・遠足				
11月	創作展・参観日・親子遠足				
12月	成道会・参観日・生活発表会(0~2歳児) 冬季休業中預かり保育				
1月	交通安全教室・学生演奏会				
2月	節分の会・生活発表会(3~5歳児)・涅槃会				
3月	参観日・ひなまつり会・卒園式				

## 年間行事

トマトの栽培 1歳児 すみれ組(5月)

芋掘り 4歳児(10月)

運動会 パラバルーン 5歳(10月)

生活発表会 ヴァイオリン演奏 5歳(2月)

創作展 張子のくじやく 5歳児(11月)

落ち葉で遊ぶ 3歳児(1月)

## 新任教員のご紹介(大学・短期大学)



音楽学部 専任准教授

よねくら ゆき

**米倉 由起**

作曲、また和声学など音楽理論を担当します。多くの学生が不得手と思いがちな分野ですが、音楽の多様な分野に活かせること、音楽の大きな力を共に認識できるような学びにしたいと思います。



食文化学部 専任准教授

にしむら みづこ

**西村 美津子**

調理学を担当いたします。社会に通じる実践力ある管理栄養士の養成に努めてまいります。「夢に向かって頑張る」皆さん一人ひとりのお手伝いをしたいと思います。よろしくお願ひいたします。



食文化学部 専任准教授

よしむら ちはる

**吉村 智春**

給食経営管理論を担当します。環境の良いくらしき作陽大学で、学生が向上心を持って学べるように一緒に頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。



食文化学部 専任講師

くにもと あゆみ

**國本 あゆみ**

応用栄養学、基礎栄養学を担当します。くらしき作陽大学とは大変ご縁があり、この度3度目のご縁をいただきました。人間力のある栄養士・管理栄養士の養成に尽力していきたいと思います。



食文化学部 専任講師

ふじさわ かつひこ

**藤澤 克彦**

本学の卒業生です。栄養指導、食育関連の授業を主に担当していますが、仏教や心理学、行動学などにも関心をもって教育に取り組んでいます。学生と一緒に楽しく過ごすのが大好きです。よろしくお願ひいたします。



子ども教育学部 専任教員

かわた ともみつ

**河田 智三**

特別支援教育を担当しています。特別支援学校での経験を生かし、教諭としての基本的な教育力・人間力を高めていくように、共に学んでいきたいと思います。よろしくお願ひいたします。



子ども教育学部 専任教員

かんざき さだこ

**神崎 貞子**

保育内容(人間関係)や幼稚園実習、教職論を担当します。幼稚園での経験を活かし、学生の皆さんに幼児期の人格形成の基礎を培う重要な教育であることを伝え、ともに学んでいきたいと思います。やりがいを見つめようよろしくお願ひいたします。



子ども教育学部 専任教員

ひろた けいこ

**廣田 敬子**

保育内容(健康)や教育実習等を担当します。保育現場での経験を活かし子どもの健やかな成長を支える保育者を目指して、学生の皆さんと一緒に楽しく学んでいきたいと思います。よろしくお願ひいたします。



子ども教育学部 専任教員

いそわ そうたろう

**磯和 壮太朗**

教育心理学など、教育・保育実践の基礎となる理論的な部分を担当しています。心理学の視点から、学生の子ども観を形作る土台となるような授業を目指します。どうぞよろしくお願ひ致します。



子ども教育学部 専任教員

せとやま ゆう

**瀬戸山 悠**

特別支援教育を担当します。心理士の経験を活かし、障がいのある子どもと家族を支えるあたたかい支援者のあり方を学生の皆さんと一緒に学んでいきたいと思います。よろしくお願ひいたします。



子ども教育学部 専任教員

うだ ひびき

**宇田 韶**

主に教育社会学、教育学概論、教職論を担当しています。学生と共に、教育(現象)を批判的に検討することの重要性を学んでいきたいと思います。どうぞ宜しくお願ひ致します。



音楽学科 専任教員

こだま ますみ

**児玉 真寿美**

保育者論や家庭支援論等を担当します。幼稚園教育現場での経験を活かし、保育現場での様々なエピソードを交えながら学生が保育者を目指したいと思えるような授業を心掛けていきたいと思います。



音楽学科 専任教員

むかいもと ひろこ

**向本 裕子**

保育原理や乳児保育等を担当します。保育現場での経験を活かし、子どものすばらしさ、保育の重要性、面白さを伝え、共に学んでいきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

## 新任の先生のご紹介(高校)



数学科 常勤講師

しおみ なおふみ

塙見 尚史

母校の教員をさせていただきました。生徒の可能性を引き出すことができるよう生徒と向き合っていきたいと思います。また、そのための自己研鑽を続けていきます。担当は数学です。よろしくお願ひいたします。



情報科 常勤講師

たかやま なおゆき

高山 直之

本年度より作陽高校で情報科を担当いたします。私は、県内、県外の私立学校に勤務してきました。公立偏重中、受け持った生徒の能力を引き出す事に取り組んできました。作陽高校で、生徒たちと新たな取り組みが出来ること楽しみにしています。よろしくお願ひいたします。

## 新任教員のご紹介(認定こども園)



保育教諭(嘱託)

ふじい みゆ

藤井 美佑

子どもたちと一緒にたくさん体を動かしたり、新しい発見をしたりしながら、自分自身の力量を高め、伸び伸びとした子どもの成長を手助けしたいと思います。笑顔溢れる保育をめざします。



保育教諭(嘱託)

まき かなみ

眞木 奏美

自然と子ども達の笑顔がたくさんあふれる子ども園にご縁をいただき、感謝しています。『わくわく・チャレンジ・どんまい!』を基に、子どもたちの成長のサポートに尽力してみたいと思います。



保育教諭(嘱託)

やまね みき

山根 美紀

自然があふれるこども園にご縁をいただき感謝しています。今までの経験を活かしていきながら、子どもたちの「生きる力」の基礎を培い成長を見守っていく一人として尽力していきたいと思います。

## 新任職員

### 大学 事務職員

西村 恵朗 (実習助手)

大塚 舞奈 (実習助手)

朝野 舞

濱邊 暢慶

米村 聖矢

秋本志紀子 (非常勤参与)

### 高校 事務職員

池田 知佳

大塚 健人

後藤 大夢

坂手 直美

## 退職・退任された教職員のご紹介(大学・短期大学・認定こども園)

### 大学

音楽学部

山下 耕司

村上恵美子

食文化学部

大野婦美子

中桐里佳子

子ども教育学部

吉田 純子

桑元 祐子

佐々木妙子

### 認定こども園

花井 康明

桐野 顯子

常藤 総久

井山 房子

佐藤 親久

古埜 弘子

磯道 郁美

猪原 敬介

加藤 七海

永井 祐也

井上 沙織

畠山富士雄

関谷美喜子

藤本 駿

早井 茉央

### 短期大学

守屋 操

大変お世話になりました。

長櫓 涼子

### 事務職員

## くらしき作陽大学 同窓会 鶴声会だより

### 鶴声会事務局

#### 各県支部の活動報告

令和2年2月から感染拡大が始まった新型コロナウイルスの影響で私たちの生活が一変していますが、鶴声会会員の皆さま、お変わりございませんでしょうか。

さて、鶴声会では2年に一度鶴声会総会を実施しており、今年度が実施年にあたりますが、常任幹事会で様々な実施方法を検討した結果、みなさまの安全を第一に考え非常に残念ではございますが、中止といたしました。総会を楽しみにされていた方をはじめ会員の皆さまには大変ご迷惑をおかけいたしますが、今般の状況を鑑みての判断ですので、何卒ご理解くださいますようよろしくお願ひいたします。

また、令和2年3月以降実施を予定していた、山口県支部総会(3月)、鹿児島県支部主催第10回スプリングコンサート(5

月)、愛媛県支部主催第2回作陽音楽コンクール(8月)、広島県支部主催レクチャーコンサート(9月)、高知県支部コンサート(9月)などの県支部活動も各県支部で協議の結果、中止の判断がなされています。終息が見えない状況ですが、会員の皆さまにおかれましては引き続き鶴声会運営に対しご協力を賜りますようお願いいたします。

また、同窓会鶴声会HPにて各県支部の報告、卒業生の活躍をご紹介していますので、ご覧ください。

【URL <http://sakuyokakuseikai.iinaa.net/>】

当面はコロナウイルスとの新しい生活スタイルになろうかと思いますが、一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と、皆さまのご健康とご活躍を祈念しています。

## 作陽短期大学・作陽音楽短期大学 同窓会 翠会だより

### 会長 元吉 恵子

#### 2019年度 翠会総会並びに懇親会開催

翠会会員の皆様方におかれましては、日頃より同窓会活動にご協力いただきありがとうございます。

このたびの新型コロナウイルス感染拡大により自粛が続き、先の見えない毎日に不安を抱いておられることがあります。また、生活に影響を受けられている皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

さて昨年11月16日、令和初の作陽短期大学・作陽音楽短期大学同窓会(翠会)総会並びに懇親会を、20年ぶりに倉敷キャンパスにて開催いたしました。今回も多くの卒業生・恩師の先生方にご参加いただき、盛会のうちに終了することができました。松田英毅学長・理事長をはじめ、お忙しいところご出席くださいました先生方、心より厚く御礼申し上げます。次回

は2年後の2022年の開催を予定しています。今回にも増して大勢の卒業生のご参加をお待ちしています。

最後になりますが、コロナ禍の影響が続く中ですが、役員一同、皆様のご意見やお力を借りしながら、同窓会をさらに活性化したいと思っています。今、普通に生活できることがいかに有り難いことかと痛感しています。この状況が早く終息し、平穀な生活に戻れ、また皆様とお会い出来る日を心より願っています。



## 作陽高校同窓会だより

作陽高校同窓会会員の皆様には同窓会運営に対し多大なるご厚情をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、例年8月に開催しております『同窓会総会並びに懇親会』はコロナの影響で開催を中止することになりました。支部活動も今のところ未定のままです。とても残念なことです、来年の開催をお持ちいただき、開催の際はぜひご参加下さい。では、ここで簡単に令和元年度の同窓会活動の一部をご報告します。

- 令和元年8月18日(土) 『作陽高校同窓会総会並びに懇親会』開催  
津山鶴山ホテル 11:00~
- 令和元年11月4日(月) 『関東支部同窓会懇親会』開催  
東京高田馬場 11:30~
- 作陽高校運動部文化部応援 全国大会出場部に激励金贈呈  
同窓会活動等については同窓会HPをご覧いただき、ご感想やご意見をお願いします。

### 岡山県作陽高等学校同窓会事務局

令和2年、松田藤子先生が津山の地に教育の場を創設されて90年になる年です。同窓会は長い歴史の重みを感じつゝも、その歴史を大切にしながら同窓生の皆様とともにこれからも歩み続けていきたいと願っています。今後ともご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

今は日本中が多大な災難に見舞われ不安な時期ですが、同窓生の皆様がご健康であり、ますますご発展されますことを心より祈念いたします。

<作陽高校同窓会HP URL>

<http://sakuyouhs-dousoukai.jp>

<作陽同窓会ブログ URL>

<https://sakuyoobog.blogspot.com/>

## くらしき作陽大学・作陽短期大学の教育目的

### ■くらしき作陽大学の目的

本学は、大乗仏教に基づく宗教的情操教育により豊かな人間性を涵養するという見学の精神に則り、広く知識を授け深く専門の学芸を教授研究して、心豊かに生きいきと生きる職業人を育成し、学術の中心として社会の発展に寄与することを目的とする。

#### 音楽学部の目的

- ・音楽学部の教育研究上の目的

建学の精神に基づく人間教育のもとに、音楽に関する質の高い専門性を身につけた心豊かに生きいきと生きる職業人を養成するとともに、国際的な音楽文化の教育研究拠点として地域に貢献することを目的とする。

- ・音楽学科の教育研究上の目的

国際的な音楽文化の教育研究を通して、音楽に関する豊かな感性と高度な技術とともに、社会性ある音楽家を養成する。

#### 食文化学部の目的

- ・食文化学部の教育研究上の目的

建学の精神に基づく人間教育のもとに、食に関する質の高い専門性を身につけた心豊かに生きいきと生きる職業人を養成するとともに、食の教育研究拠点として地域に貢献することを目的とする。

- ・現代食文化学科の教育研究上の目的

食に関する教育研究を通して、食を総合的に学修した食文化に強い心豊かな栄養士ならびに教員等を養成する。

- ・栄養学科の教育研究上の目的

食と健康に関する教育研究を通して、健全な未来社会を築くために貢献できる心豊かな管理栄養士を養成する。

#### 子ども教育学部の目的

- ・子ども教育学部の教育研究上の目的

建学の精神に基づく人間教育のもとに、保育と教育および子育て支援に関する質の高い専門性を身につけた心豊かに生きいきと生きる職業人を養成するとともに、保育と教育および子育て支援の教育研究拠点として社会に貢献することを目的とする。

- ・子ども教育学科の教育研究上の目的

保育と教育、子育て支援に関する教育研究を通して、現代の保育・教育現場に求められる高度な専門性と実践力を持った、心豊かな保育・教育等に従事する人材を養成する。

#### 大学院音楽研究科の目的

広い視野に立って音楽に関する清深な学識を授け、地域の音楽文化の向上に貢献することのできる高度な専門性を有する人材を養成することを目的とする。

### ■作陽短期大学の目的

本学は、大乗仏教に基づく宗教的情操教育により豊かな人間性を涵養するという見学の精神に則り、深く専門の学芸を教授研究して、心豊かに生きいきと生きる職業人を育成し、学術の中心として社会の発展に寄与することを目的とする。

- ・音楽学科の目的

建学の精神に基づく人間教育のもと、音楽に関する豊かな感性と専門性をもって地域の文化や教育の向上のため心豊かに生きいきと生きる職業人を養成する。

- ・音楽専攻の目的

音楽文化の教育研究を通して、豊かな感性と高い専門性をもつ心豊かな人材を養成する。

- ・幼児教育専攻の目的

幼児教育と音楽文化の教育研究を通して、豊かな感性と専門性をもつ心豊かな保育・幼児教育に従事する人材を養成する。

## 2021年度大学入試制度変更のポイントについて

### 【変更点①】AO→総合型選抜と推薦→学校推薦型選抜（公募・指定校・作陽高校）

「総合型選抜Ⅰ期」は出願時期が9月1日から9月10日まで、合格発表は、10月2日

「総合型選抜Ⅱ期」は出願時期が10月1日から10月8日まで、合格発表は、10月23日

「学校推薦型選抜（公募）Ⅰ期」は出願時期が10月26日から11月5日まで、合格発表は、11月20日

「学校推薦型選抜（公募）Ⅱ期」は出願時期が11月24日から12月3日まで、合格発表は、12月18日

※作陽高校（学校推薦型選抜（作陽高校）からの学内特別選考は、継続実施

### 【変更点②】大学入試センター試験利用入試→大学入学共通テスト利用入試の継続実施

### 【変更点③】学力の3要素による評価

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」⇒小論文・口頭試問・プレゼンテーション・個人面接など多様な入試科目設定

「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」⇒入試区分ごとに判定方法が異なりますが高等学校が作成する「調査書」、

学習成績の状況（評定平均値/※一部選抜では、点数化）、出席日数、特別活動の記録、指導上の参考になる諸事項、

受験生本人が作成する「志願理由書」などを総合的に判定

## 令和元年度決算について

令和元年度決算の概要は以下のとおりです。

この決算は、5月26日に行なわれた理事会・評議員会の承認を受けたものです。

### 資金収支計算書

当該会計年度に行った諸活動に対応する全ての資金の動きを記録することによって当該年度の収入と支出の内容を明らかにし支払資金の顛末を表すものです。

資産売却収入は、固定資産等の売却による収入をいい、不動産、有価証券などの売却による収入が代表的なものとしてあげられます。

前年度収入は、翌年度以降の諸活動に対応する資金を受け入れた場合に生ずる科目で、一般的には翌年度学生にかかる学生等納付金収入などが代表的なもののです。

資金収入調整勘定は、期末における未収入金の計上、また前年度で前受金とした当該年度に属する学費收入等を学生等納付金収入として計算するための算定科目です。

教育研究費支出とは、教育研究に直接要する経費のことといい、光熱水費をはじめ研究費、奨学生費、入学試験にかかる経費もこの中に含まれます。

施設関係支出とは、土地、建物、構築物といった固定資産取得のための支出です。

その他の支出は前年度中の活動に係る支出のうち、当該年度に支払われた期末未払金支払支出の他、前払金支払支出などがあります。

**資金収支の概要**  
収入の大部分を占める学生等納付金は19億4,500万円。寄付金収入は大学・短大後援会、高等学校PTAからの寄付金など予算比800万円増収の9,400万円。補助金収入は予算比4,300万円減収の3億6,000万円となりました。一方、主な支出については人件費支出が予算比1,700万円増額の12億900万円、教育研究費支出が予算比6,000万円減額の4億4,200万円、管理経費支出が予算比1,700万円減額の1億8,600万円、資産運用支出が有価証券購入により予算比4億円増額の4億円となりました。

#### 【収入の部】

(単位:百万円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学生等納付金収入	1,961	1,945	16
手数料収入	30	27	3
寄付金収入	86	94	△8
補助金収入	403	360	43
資産売却収入	0	15	△15
付随事業収入	70	71	△1
受取利息・配当金収入	52	53	△1
雑 収 入	29	57	△28
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	359	312	47
その他の収入	107	107	0
資金収入調整勘定	△353	△405	52
前年度繰越支払資金	5,187	5,187	0
収入の部合計	7,930	7,822	108

#### 【支出の部】

(単位:百万円)

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	1,192	1,209	△17
教育研究経費支出	502	442	60
管理経費支出	203	186	17
借入金利息支出	0	0	0
借入金返済支出	0	0	0
施設関係支出	196	195	1
設備関係支出	38	46	△8
資産運用支出	0	400	△400
その他の支出	117	108	9
(予備費)			0
資金支出調整勘定	△86	△88	2
翌年度繰越支払資金	5,767	5,323	444
支出の部合計	7,930	7,822	108

\*表示された数値以下の端数は個々に四捨五入してあるので、合計欄の数値と一致しない場合があります。

学生等納付金  
収入は、入学金を含む授業料などの学費収入です。

雑収入とは、学校法人の事業活動収入のうち、学生等納付金から受取利息・配当金収入までのいすれにも該当しない事業活動収入をいいます。

その他他の収入は前期末未収入金収入、貸付金回収入、引当特定資産からの線入収入などです。

管理経費支出は、教育研究活動に間接的に要する経費で、一般経費のほかに役員会、法人業務、教職員の福利厚生費、学生募集経費、食堂の経費などが加わります。

設備関係支出とは、教育研究用の機器備品、管理用機器備品、図書、車両といった固定資産取得のための支出です。

資金支出調整勘定とは、当該年度中に支払うべき支出であるが、支払いが次年度になる期末未支払金や、前年度に支払いを済ませた当該年度の支出を減算することにより支出額を調整するものです。

### 事業活動収支計算書

「事業活動収支計算書」では、経常的な収支のバランスと臨時の収支のバランスを区分して表示します。従前の「消費収支計算書」の名称が平成27年度の改正で「事業活動収支計算書」に変更されました。

(単位:百万円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学生等納付金	1,961	1,945	16
手数料	30	27	3
寄付金	85	93	△8
経常費等補助金	401	360	41
付随事業収入	70	71	△1
雑 収 入	32	60	△28
教育活動収入	2,579	2,556	23
人件費	1,190	1,207	△17
教員人件費	855	845	10
職員人件費	327	324	3
その他人件費	8	38	△30
教育研究経費	764	701	63
管理経費	241	221	20
徴収不能額等	2	3	△1
教育活動支出	2,197	2,132	65
教育活動収支差額	382	424	△42
受取利息・配当金	43	45	△2
その他教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入	43	45	△2
借入金等利息	0	0	0
その他教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出	0	0	0
教育活動外収支差額	425	469	△44

資産売却差額	0	8	△8
その他の特別収入	4	2	2
特別収入計	4	11	△7
資産処分差額	0	62	△62
その他の特別支出	0	0	0
特別支出計	0	62	△62
特別収支差額	4	△51	55
(予備費)			
基本金組入前年度収支差額	430	418	12
基本金組入額合計	△217	△111	△106
当年度収支差額	212	307	△95
前年度繰越収支差額	2,502	2,502	0
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越収支差額	2,714	2,808	△94
(参考)			
事業活動収入	2,627	2,611	16
事業活動支出	2,197	2,193	4

\*表示された数値以下の端数は個々に四捨五入してあるので、合計欄の数値と一致しない場合があります。

#### 《事業活動収支の概要》

事業活動収入の大部分を占める学生等納付金は2,556万円減収となりました。また、事業活動支出の大部分を占める人件費、教育研究経費、管理経費等の教育活動収入の合計は予算に対して6,500万円の減額となりました。よって教育活動収支差額は4億2,400万円の収入超過となりました。事業活動全体では事業活動収入が26億1,100万円、事業活動支出が21億9,300万円となり基本金組入前年度収支差額4億1,800万円の収入超過となりました。また、当年度収支差額は3億700万円の収入超過となりました。

### 貸借対照表

期末(年度末)における資産・負債・基本金および収支差額を把握し、財務状態の健全性を表すものです。

#### 【資産の部】

(単位:百万円)

科 目	令和元年度末	平成30年度末	増 減
固定資産	21,006	20,735	271
有形固定資産	15,130	15,248	△118
土地	5,710	5,735	△25
建物	8,493	8,616	△123
構築物	48	54	△6
教育研究用機器備品	71	84	△13
管理用機器備品	22	22	0
図書	728	724	4
車両	25	13	12
特定資産	1,870	1,871	△1
その他の固定資産	4,006	3,617	389
流動資産	5,418	5,294	124
資産の部合計	26,424	26,030	394

#### 《貸借対照表の概要》

(資産について) 有形固定資産の建物、構築物、教育研究用機器備品等の減少の主因は減価償却によるものです。その他の固定資産の増加は有価証券の増加によるものです。

(負債について) 固定負債の減少は退職給与引当金の減少を中心としたものです。

(純資産について) 本年度は前年度対比で資産が3億9,400万円増加し、負債が2,400万円減少したことにより純資産は254億8,300万円となりました。

#### 【負債の部】

(単位:百万円)

科 目	令和元年度末	平成30年度末	増 減
固定負債	549	546	3
流動負債	392	419	△27
負債の部合計	941	965	△24

#### 【純資産の部】

(単位:百万円)

科 目	令和元年度末	平成30年度末	増 減
基本金	22,675	22,563	112
第1号基本金	22,472	22,361	111
第3号基本金	30	30	0
第4号基本金	172	172	0
繰越収支差額	2,808	2,502	306
翌年度繰越収支差額	2,808	2,502	306
純資産の部合計	25,483	25,065	418

#### 【負債及び純資産の部】

(単位:百万円)

科 目	令和元年度末	平成30年度末	増 減
負債及び純資産の部合計	26,424	26,030	394

\*表示された数値以下の端数は個々に四捨五入してあるので、合計欄の数値と一致しない場合があります。

# 創立90周年記念募金 募集要項

名 称／作陽学園創立90周年記念事業募金

募金目標金額／5,000万円

募金の種類／個人一口 5,000円(できるだけ複数口でご協力をいただければ幸いです)

法人一口 10,000円(できるだけ複数口でご協力をいただければ幸いです)

※個人、法人とも上記金額にかかるわらず、有り難くお受けいたします。

募 集 期 間／2020年4月1日～2026年3月31日

募金の使途／①高校新キャンパスサポート募金

②教育環境サポート募金(対象:大学、短期大学)

③キャンパス緑化募金

④学生課外活動・部活動サポート募金(対象:大学、短期大学、高校)

⑤特定の学部・学科等サポート募金(対象:大学、短期大学、高校、こども園)

⑥松田藤子記念奨学金募金(対象:大学、短期大学、高校)

⑦その他

## ①高校新キャンパスサポート募金

津山市から倉敷市玉島八島に移転することで、学園設置校のくらしき作陽大学、作陽短期大学、くらしき作陽大学附属認定こども園との距離が近くなり、法人一体となった特色ある良質な教育を高等学校から一貫して提供することが可能となります。

岡山県作陽高等学校の新キャンパス事業開設にご参画いただき、「念願は人格を決定す 繼続は力なり」を実践する生徒たちをサポートしていただきますようお願い申し上げます。

## ②教育環境サポート募金(対象:大学、短期大学)

くらしき作陽大学、作陽短期大学の教育研究に係る環境、空調、機器備品更新など施設設備を更に充実し、学生たちの学びをバックアップします。学生にとってより良い教育研究環境を提供するために活用させていただきます。

## ③キャンパス緑化募金

キャンパスの緑化・環境保全に活用させていただきます。

## ④学生課外活動・部活動サポート募金(対象:大学、短期大学、高校)

大学・短大の学生会、サークル活動、高校の部活動支援など各団体を直接支援できる制度です。

振込取扱票の通信欄にご指定の団体名をご記入ください。

## ⑤特定の学部学科等支援(対象:大学、短期大学、高校、こども園)

作陽学園は、くらしき作陽大学(音楽学部、食文化学部、子ども教育学部)、作陽短期大学(音楽学科)、岡山県作陽高等学校、くらしき作陽大学附属認定こども園の多岐にわたる領域で構成されており、それぞれにおいて学は「念願は人格を決定す 繼続は力なり」のもと各学部、学科等が特色ある良質な教育を行っています。ご指定いただいた学部・学科等の教育・研究の充実に充当させていただきます。

ご指定いただく学部・学科等は、払込取扱票の通信欄にご記入ください。

【学部・学科等】音楽学部、食文化学部、子ども教育学部、短大音楽学科、作陽高等学校、附属認定こども園

## ⑥松田藤子記念奨学金募金(対象:大学、短期大学、高校)

本学園創立者である故松田藤子学園長の遺志に基づき、卒業年度において学費支持者の死亡、自然災害等により学費納入が著しく困難となつた学生に対して給付される奨学金(大学、短期大学)。学業・人物ともに優秀で、他の模範となる生徒と認められた者に対して支給(返還なし)される奨学金(高校)をサポートする募金です。

## ⑦その他

特に使途のご指定のない寄附に関しましては、本学園のさらなる発展のため諸事業に係る経費に充当させていただきます。



学園報に関するお問い合わせは  
**作陽学園事務局 学園報担当(企画広報)**

〒710-0292 岡山県倉敷市玉島長尾3515  
tel 086-523-0822/fax 086-436-0283  
Eメール sakuyo.kikaku@ksu.ac.jp